



みはら玉手箱



「平成29年度市民学芸員の会」が閉講式を迎えました。3年間の養成講座に始まり、その後6年間の実践講座を重ねた同会の実質的な解散式でもありました。この第22号では、その様子と2頁目以降に各グループの成果と、情報発信グループの最新調査結果を報告します。



平成29年度市民学芸員講座

閉講式

平成30年1月21日(日)
(於 城町庁舎2F 大会議室)

1. 開会挨拶 文化課
2. グループ発表 (活動報告・感想) 全7グループ 順番に発表
3. 講評 三原市文化財協会会長 橋本敬一先生
4. 「市民学芸員の会」の解散宣言と閉会の辞 文化課



〔教育委員会 文化課〕



〔橋本敬一先生〕

各グループの感想・報告

…今年度ならびに、これまでの成果も含めた発表もありました。

1. 情報発信グループ

市民学芸員の活動状況や三原関連のおもしろクイズ、市内各地の祭り・石碑・狛犬などを紹介する「みはら玉手箱」の第19～21号を今年度発行し第22号を2月に発行予定です。



2. 宮本常一写真収集グループ

本年度7月27日～8月4日第2回目の宮本常一写真展を開催しました。周防大島にある宮本記念館所蔵の膨大な写真の中で、三原市関係の約1,600枚から260枚を選定し、41枚の大型パネルに収め、説明を付けて展示したものです。一週間の会期中、260名の入場者があり好評でした。



3. 三原古写真収集グループ

古写真集の第3弾として、平成17年に合併した本郷町、久井町、大和町に範囲を拡げ、旧町誌編纂の際に使用された写真を中心に整理して発行しました。撮影年月等被写体に込められた様々な状況把握に、現地を何回も調査し、その結果を解説文にまとめました。



4. 城下町体験グループ

スマートフォンやタブレット端末を持って目的地で画面上の解説を読む観光客のために、「三原地図さんぽ」の名称で、三原市の東町から本町、西町までの範囲で案内するソフトがあります。これに5枚の古地図が追加されたので、グループで手分けして解説文追加等で文化課を支援しました。



5. 城館体験グループ



今年度の活動は、既成資料の見直し程度だったとの報告でしたが、前年度までに作成された、新高山城跡や高山城跡の縄張り図などは、好評で広く活用されています。

6. 三原遺産研究グループ



明治から昭和40年代頃の範囲で、市内各地に残された近代化遺産（工業、林業、教育など）に焦点を当てて収集し、現在最終編集作業中です。

7. 市民学芸員運営グループ

今年度は、築城450年関連の講演会が多かったので、受付業務等に追われる1年間でした。



<橋本先生のご講評>

「3年間の養成講座に続いて6年間の実践講座を修了し、受講生のみなさんの成長を頼もしく思いました」

<教育委員会 文化課長>

「9年間続いた講座で、貴重な体験をされ実績も残されました。講座はこれで終了しますが、市民学芸員として、今後のご活躍を期待しております」

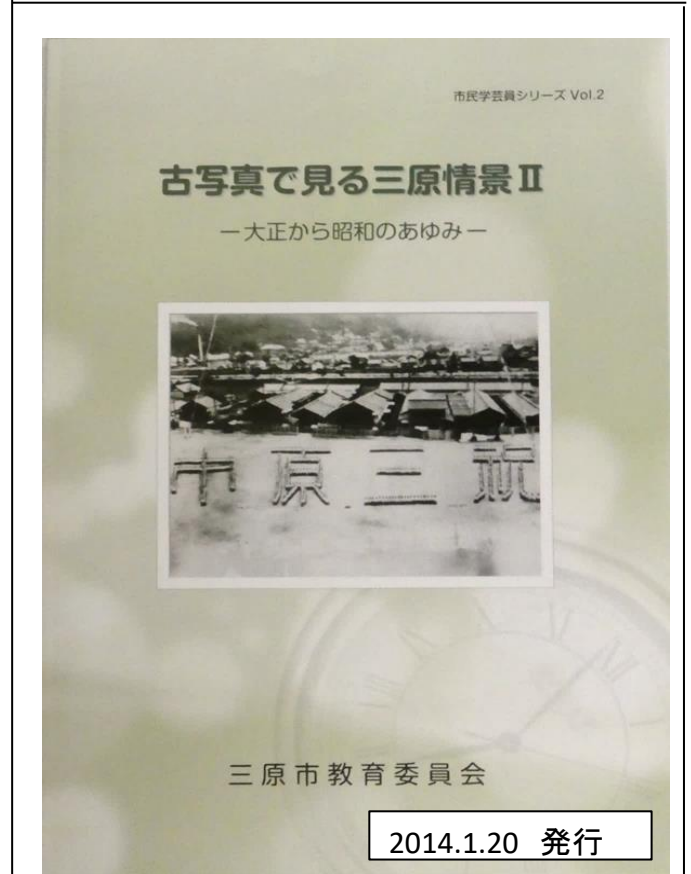
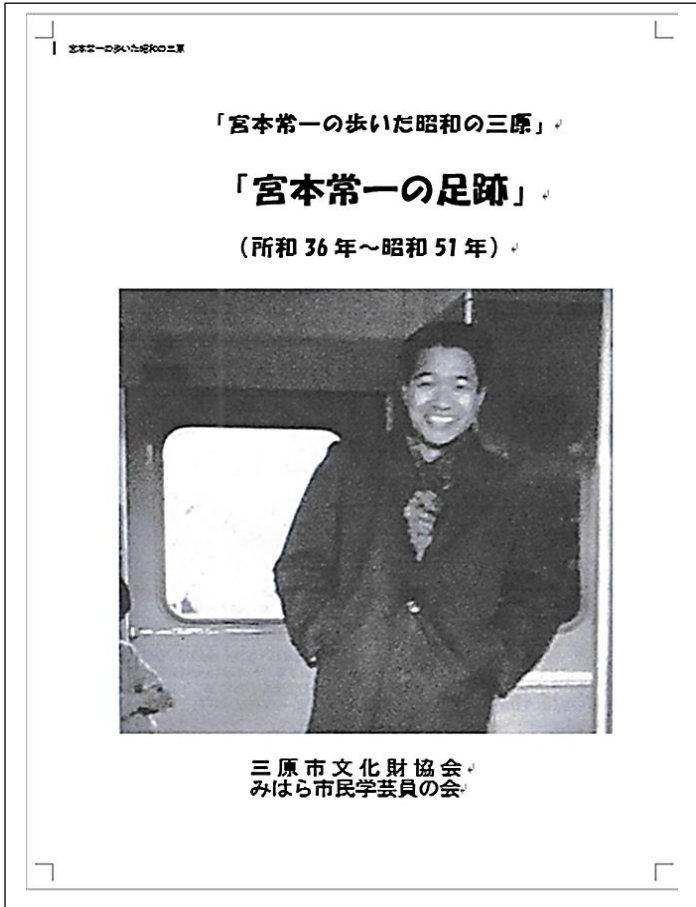
【質問受付】 この「みはら玉手箱」への質問等は
三原市教育委員会文化課
bunka@city.mihara.hiroshima.jp宛に
お寄せください

みはら玉手箱の発行記録

発行	表紙	おもしろクイズ	祭　　り	石		碑	狛　　　　　犬		
				記念碑	道　　標	歌　　碑			
創刊号 H24.10	市民学芸員の 紹介	<三原の日本一> 神明大だるま、 阿部白桃、 空港スカイアーチ	小方島神社 秋季例大祭 (沼田東)	定屋和尚架橋 の碑 (明神)	仏ヶ峠の国境碑 (新倉)	花の心 (医師会病院)	狛犬の起源	狛犬の由来	
第2号 H24.12	「お城のまわりの 探検」(体験Gr)	<三原の世界一> 宿禰島、池田敬子	胡神社の秋の 例祭(東町)	敦篤碑 (沼田東)	一宮道標 (沼田東)	官茶山文学碑 (米山寺)	糸碕神社 鳥居前	糸碕神社 本殿前	
第3号 H25.3	閉講式	神明大だるま 世代交代	能地ふとん だんじり(幸崎)	法華塔 (本郷)	堂張橋道標、三次道道標 (本郷)		狛犬基礎知識	瀧宮神社 (中之町)	
第4号 H25.6	各Grの25年度 活動目標	三原城の石垣	久井稻生神社の 祇園祭(久井)	甌天満宮の 標柱(本郷)	茅の市の道標 (本郷)	川柳の句碑 (佛通寺)	賀羅加波神社 (中之町)	籠怒神社 (東町)	和気神社 (八幡)
第5号 H25.9	各Grの25年度 活動状況	消えた河原谷川 の下流	御調八幡宮 秋季例祭(八幡)	三原洋学所 (糸崎)	虚空蔵への道標 (木原)	万葉歌碑 (糸碕神社)	大島神社 (本町)	三原八幡宮 (西宮)	八阪神社 (西宮)
第6号 H25.12	「親子で学ぶ みはら玉手箱」 の裏話	小早川甲冑隊	長谷神社例祭 (長谷)	松浜新港 (糸崎)	鉢ヶ峰への道標 (木原)	梁川星巖 「双鷲州」 (糸碕神社)	厳島神社 (宮沖)	甚五郎神社 (宮沖)	宗郷 宇佐八幡宮 (宗郷)
第7号 H26.3	H25 閉講式	だるまさんの七変化	神明さんと 「ぬた」 (東町)	妙正寺跡の 石碑 (本町)	光谷分かれの 道標 (中之町)	松寿寺の川柳 (東町)	正時神社 (登町)	幸崎神社 (幸崎)	久和喜神社 (幸崎)
第8号 H26.6	H26 閉講式	武内俊子	沼田神社祇園 大祭(沼田東)	西宮一里塚 (西宮)	西惣門跡他 (西宮)	芭蕉 (三原八幡宮)	瘡神社 (新倉)	大須賀神社 (新倉)	八重垣神社 (長谷)
第9号 H26.9	山陽鉄道もの がたり	三原にある 新四国八十八カ所	沼田本郷夏祭り (本郷南)	頼兼城跡の 石碑 (頼兼)	頼山陽祖先の地 (頼兼)	頼山陽観梅詩 石碑 (西野)	八幡神社 (久井)	御調八幡宮 本殿前 (八幡)	御調八幡宮 拝殿前 (八幡)
第10号 H26.11	第2回城下町 ウォーク	興安丸の錨	一	天井川改修 記念碑 (小泉)	甲原交差点 (小泉)	輝く土の光 (小泉)	長谷神社 (長谷)	久井稻生神社 (久井)	貴船神社 (久井)
第11号 H27.3	H26 閉講式	復活！みはらだるま	金剛寺 火渡り (田野浦)	井屋峠大改修 (沼田)	四辻の道標 (沼田)	金毘羅大権現 (沼田)	軍神社 (沼田東)	沼田神社 (沼田東)	小方島神社 (沼田東)
第12号 H27.8	H27 閉講式	文化会館から 芸術文化センター ポポロへ	「夏越の大祓」 神事 (糸碕神社)	想い出の碑 (本郷中央 森林公園)	道標 (竹林寺用倉線)	厳島神社の 陶板画 (広島空港)	釜山神社・ 生田神社 (沼田東)	一宮豊田神社 (沼田東)	湯原神社 (小泉)
第13号 H27.11	講演会「小早川 隆景ものが たり」	船入櫓跡の石垣	大須賀神社 「チンコンカン」 (新倉)	南山碑 (幸崎)	地藏堂前三叉路 の道標他 (幸崎)	浅野忠順公の 句碑 (龍泉寺)	恵美須神社 (本郷南)		橘神社 (本郷南)
第14号 H28.1	各Gr活動 中間報告	三原の大將軍	「秋の例大祭」 (糸碕神社)	桂田浜の碑 (糸崎)	一里塚 (糸崎)	慈雲庵暁月 (糸崎)	宮川神社 (本郷下北方)	甌神社 (本郷下北方)	南方神社 (本郷南方)
第15号 H28.3	H27 閉講式	啓迪集	亀山八幡 「御弓神事」 (佐木島)	糸碕鉄道学校 (糸崎)	東惣門跡 (旭町)	今川了俊 (糸碕神社)	大歳神社 (本郷町)	霹靂神社 参道・石段・本殿 (本郷町)	
第16号 H28.6	高山城跡 見学会	一	沼田神社湯立祭 (沼田東)	高楠順次郎 顕彰碑 (八幡)	沢井図書館へ (八幡)	高楠順次郎碑 建立に詠む (八幡)	小浦八幡宮 (佐木島)	比呂神社 (佐木島)	恵比寿神社 (佐木島)
第17号 H28.9	講演「沼田 小早川氏」	半どん夜市	大和町「花田植」 (大具)	米山寺 (沼田東)	米山寺道標 (沼田東)	菅茶山 (米山寺)	亀山八幡神社 鳥居前・参道・本殿 (佐木島)		穀神社 (佐木島)
第18号 H28.12	H28 講演要旨	三原八幡宮鳥居 の変遷	八幡の火祭り (八幡)	田中満真 (八幡)	三道祖の道標 (八幡)	御調八幡頼山陽 (八幡)	田中八幡宮 (大和)	氏八幡宮 (大和)	椋梨八幡神社 (大和)
第19号 H29.3	H28 閉講式	三原城跡歴史公園	亀山神社紀元節 (大和)	宮尾嘉作翁 (大和)	三叉路道標 (大和)	鮎本刀良意 (大和)	平坂八幡神社 (大和)	御霊神社 (大和)	八幡神社 (大和)
第20号 H29.6	H29 講演会記録	「鯉の町みはら」 の誕生	ボタン・ふじ祭り (高坂)	勸学「道」 (館町)	東町大手門跡 (館町)	沼田香雪 (館町)	篠八幡神社 (大和)	蔵宗八幡神社 (大和)	大具八幡神社 (大和)
第21号 H29.11	H29 Gr活動状況	佐木島トライアスロン	トライアスロン 佐木島 (佐木島)	古浜土地区画 整理 (古浜)	東町の小路 (東町)	坂村真民 (東町)	大草八幡神社 (大和)	天満八幡神社 (大和)	上草井 八幡神社 (大和)
第22号 H30.2	H29 閉講式	三原駅前大とんど	神殿入 (大和)	瀑雪の滝 (本郷)	姥ヶ原道標 (大和)	匡真寺連歌碑 (新高山城跡)	矢矧神社 (大和)	八和田神社 (大和)	細野神社 (大和)

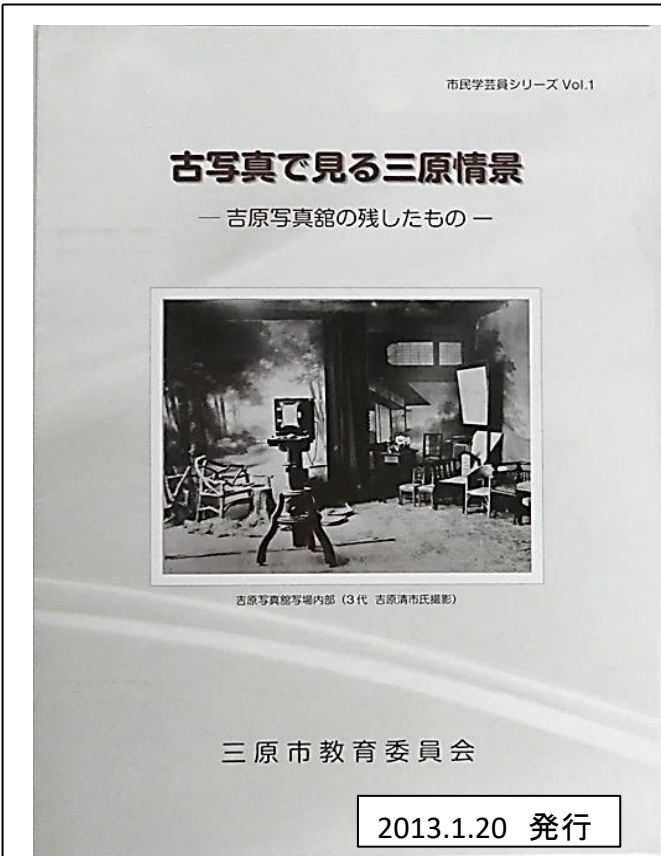
宮本常一写真収集Gr

… 市民学芸員学習用(非売品)として編集しました。



三原古写真収集Gr

… 三冊の古写真集を発行しました。





三原市の紹介

三原市は、瀬戸内海のほぼ中央、広島県の南東部に位置する、瀬戸内海の温暖な気候に恵まれたまちです。山陽新幹線、山陽本線、呉線の発着駅であるJR三原駅や、三原港、広島空港があり、広島県の「陸・海・空の交通拠点」となっています。

また、「瀬戸内海随一」の絶景が望める瀬戸内海国立公園筆影山・竜王山などの観光スポットや、タコ料理、スイーツ（おやつ）、地酒などの絶品グルメも盛りだくさんです。

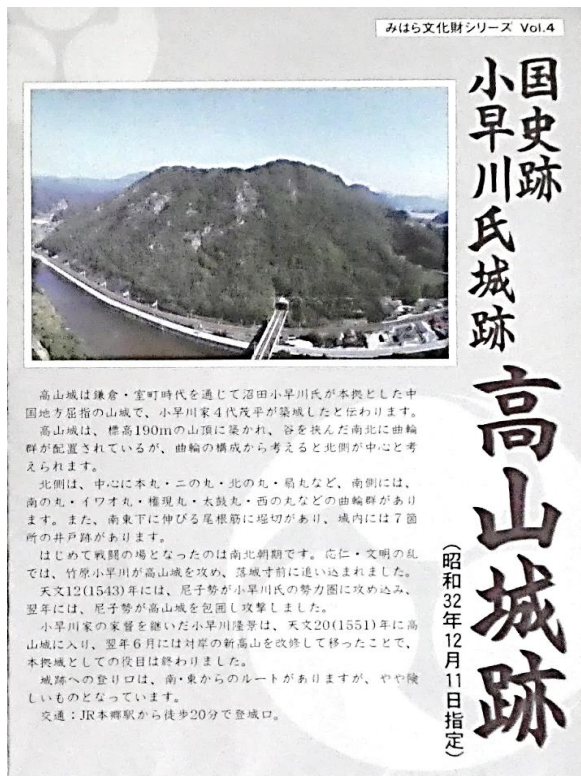


天主台としては日本有数の規模で、形状は東西50m南北55m堀からの高さ13.5mの曲輪で本



永禄10年（1567年）、毛利元就の三男・小早

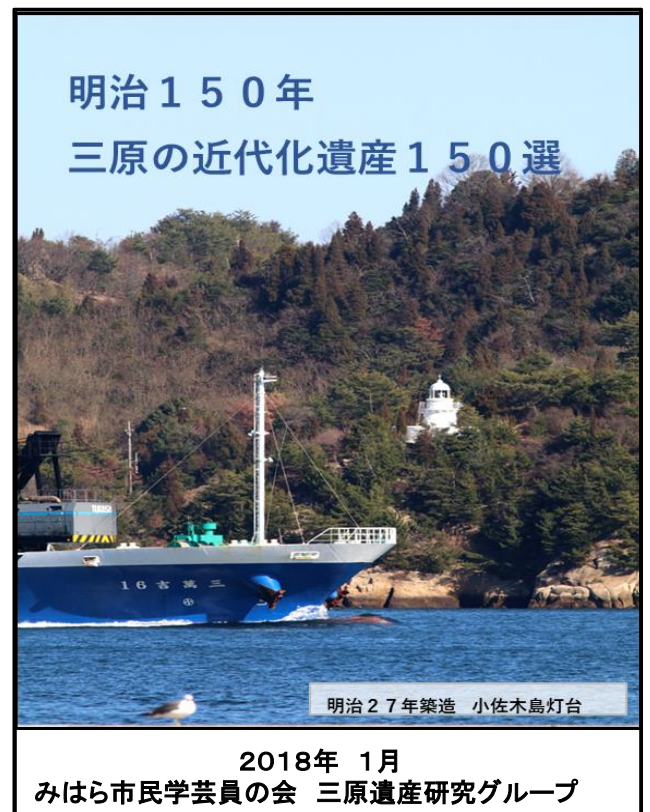
城館体験Gr



平成28年3月25日発行

三原遺産研究Gr

…市民学芸員用(非売品)に編集しました。



2018年 1月

みはら市民学芸員の会 三原遺産研究グループ

歴史講座一覧表

市民学芸員運営グループ

(自平成27年1月 ～至 平成29年11月)

開催日	演 題	講 師	会 場				備 考
			A	B	C	D	
H27.01.18	城下町絵図を活用した iPhone・iPad アプリによる地域学習	鳥取県立博物館 主任学芸員 来見田 博基氏	○				
H27.04.19	『鳥取こちずぶらり』の事例	徳島大学 塚本 章宏准教授			○		
H27.05.31	三原の新聞について	三原市文化財協会 橋本 敬一会長			○		
H27.06.28	中世の市について	県立広島大学 鈴木 康之准教授			○		
H27.07.12	日南市の文化財を生かしたまちづくりについて	日南市教育委員会生涯学習課 岡本 武憲課長			○		
H27.06.07	小早川隆景の生涯	広島大学大学院 文学研究科 本多 博之教授		○			小早川隆景 ものがたり
H27.07.26	隆景の小早川家相続と毛利家	県立広島大学 人間文化学部 秋山 伸隆教授		○			
H27.08.02	小早川隆景と肖像画	広島市立大学 国際学部 城市 真理子准教授		○			
H27.08.23	小早川隆景の城郭普請	佐賀大学 全学教育機構 宮武 正登教授		○			
H27.09.13	博物館等における展示・収蔵環境について	文化庁美術学芸課 文化財管理指導官 宇田川 滋正氏		○			三原市の文化財展 ～文化財を守り伝える～ 関連講演会
H27.09.20	三原市の文化財修復 ～小早川隆景画像・登覧画図～	侑墨仙堂 関地 治代表取締役		○			
H27.09.27	東京大学史料編纂所の活動と 幕沼寺文書の世界	楽浪文化財修理所 高橋 利明所長 東京大学史料編纂所 井上 聡助教		○			
H28.01.24	里海文化の資源化～三原のタコを中心に 宮本常一がみた海の文化 ～瀬戸内写真の資源化 三原の民俗学徒・鮎本虎夫と 宮本常一の交友	愛知大学 印南 敏秀教授 宮本常一記念館 高木 泰伸学芸員 みはらアーカイブス 友宗 邦夫氏	○				公開講座 「里海フォーラム」
H28.05.29	沼田小早川氏について	三原市文化財協会 橋本 敬一会長		○			
H28.06.19	宮島における町屋再生と伝建 地区化等の最近の動向	広島工業大学 森保 洋之名誉教授			○		歴史的建造物 講演会
H28.06.12	小早川隆景の戦国時代史	広島大学 岸田 裕之名誉教授		○			小早川隆景 ものがたり
H28.06.26	小早川隆景と村上海賊衆	松山大学法学部 山内 護教授		○			
H28.08.07	小早川隆景と城・社寺建築	広島大学総合博物館 佐藤 大規学芸職員		○			
H28.08.21	小早川隆景と豊臣政権	國學院大學文学部 矢部 健太郎教授		○			
H28.09.04	毛利元就と小早川隆景	毛利博物館 柴原 直樹館長代理			○		
H28.10.09	史跡横見廃寺跡について	東広島市出土文化財管理センター 妹尾 周三センター長			○		
H28.11.19	山城は楽しい	城郭ライター 萩原 さちこ氏				○	
H28.12.18	佛通寺の歴史	佛通寺文化財等調査委員会 橋本 敬一委員長			○		佛通寺文化財 講演会
	佛通寺の頂相彫刻 ～佛通禪師と大通禪師～	島根県立古代出雲歴史博物館 的野 克之学芸部長					
H29.02.26	日本三大海城	広島大学大学院 文学研究科 三浦 正幸教授	○				海城講演会
H29.04.30	三原浅野家の石造物について	特定非営利活動法人 広島文化財センター 濱岡 大輔氏			○		
H29.07.30	宮本常一、その足跡と三原の関わり	元神奈川大学教授 香月 洋一郎氏	○				
H29.09.24	日本の民家	奈良文化財研究所 西山 和宏 主任研究官					
H29.12.03	日本の無縫塔	(公財)元興寺文化財研究所 佐藤 亜聖主任研究員		○			
H29.05.07	小早川隆景の伊予支配	三重大学 藤田 達生教授		○			小早川隆景 ものがたり
H29.05.28	小早川隆景と名島城・博多	福岡市埋蔵文化財センター 大庭 康時所長		○			
H29.06.04	蓮台に乗った小早川隆景	美術史家 文学博士 関 信子氏		○			
H29.06.18	三原隠退後の隆景と家臣・家族 ・そして社会	広島大学大学院 文学研究科 本多 博之教授		○			

会場：A-城町庁舎 B-リージョンプラザ C-本郷生涯学習センター D-本郷にいたかホール

みはら おもしろクイズ



(解答は7/15頁の欄外にあります)

三原駅前の大とんど

” 備後路に春を告げる「三原神明市」約500軒を越える露天商が立ち並びます” と三原市のホームページに紹介されています。「三原神明市」の特徴を振り返りながら、三原駅前大とんどについて、詳しくご紹介します。

1. 三原神明市の特徴 … 複数の祭りの集合

三原神明市は、以下の二つの行事が集合したものです。

- (1) 神明祭… 伊勢神宮を祀る祭りのことをいいます。三原市史第七巻には、小早川氏統治のころ、伊勢神宮の村山太夫という御師が来三し、東町の伊勢屋に宿泊したと記載されています。江戸時代には、白米彦助太夫の名前が見られます。御師の役割は、家内安全と五穀豊穡を祈って各家に伊勢神宮のお札を配ることでしたが、江戸時代になって全国のお伊勢参りが盛んになると、遠方からの人は、伊勢にある御師の家に落ち着いたそうです。
- (2) 左義長（おやま、とんど）… 1月14日の夜または15日の朝に、刈り取り跡の残る田などに長い竹を3、4本組んで立て、その年飾った門松や注連飾り、書き初めなどを持ち寄って焼く。その火で焼いた餅等を食べたり、注連飾り等の灰を自宅の周囲にまくと、その年の病を除く、書き初めは高く舞上がるほど字が上達するなどと言われています。

＜左義長の別名＞

この祭りは、三原市内は勿論、全国で催されており、ところにより、おやま、とんど、どんどん、とんど焼き、さいと焼きほか沢山の呼び名があります。

＜左義長の名前の起源＞

諸説あるようですが、岩波書店発行『広辞苑 第七版』には、図解入りで「小正月の火祭り行事。宮中では、正月十五日と十八日に清涼殿の東庭で、青竹を束ねて立て、^{ぎつちよう}毬杖三本を結び、扇子、短冊、^{きつしよ}吉書などを添え、謡い、はやしつつ焼いた。民間では、正月十四日または十五日（九州では、六～七日）竹を組立て、門松、^{しめ かざり}七五三飾り、書き初めなどを持ち寄って焼く。その火で焼いた餅を食べればその年の病を除くという」と記載されています。

^{ぎつちよう}毬杖とは？

上記の広辞苑によると、正月行事の童児の遊戲に使う毬を打つ長柄の槌。



〔左義長〕



〔毬杖を使う図〕

＜「三原志稿」の解説＞

東町神明祭。神祠あるにあらす。天照皇太神宮を齋まつるといふ。當屋あり、正月四日より年始の注連其の餘りものをあつめて、十二日に御山とて竹を繼て、松、山草、藁にて、長く巻立圖のこ
とく 圖有、古記の部へ出す 是を立る。また御棚とて御山の前に飯屋を設け
翠簾をつり神鏡神酒など備へ幣勸請いたして十三日夜より御棚
かさりす 此山町端關貫の漁師町のみ十二日御棚をかさり、十三日に御山立てる、十四日飯屋に人形の作物いたし、此作物其町々の出来の評判をあらそふ。奥在、島がた、人出多く諸品持来て交易し、東西町の大市也。早天より夜分へかけ参詣の人夥し。夜半に一同に仕舞て海へ流す。十四日雨天なれば十五日に延ふ也。 御山の飾なと少しつゝ焼初る。左義長の佳例也。

2. 三原駅前の大とんど

(1) 形状と大きさ

「三原志稿」には、右図の掲載があります。現在の駅前大とんどは、芯が鉄骨構造です。足元はタイル貼り地面に埋込めまれ金具で固定、本体は四方に針金で繋留されており、倒れ防止は万全のようです。

高さは、三原志稿に九間と記されていることから、18m丁度に仕上げてあります。一間を6尺5寸で計算されたのでしょう。

(2) 関係者

このとんどは、三原神明市協賛会のとんど部で製作されています。協賛会は、本町、館町、泰雲寺、浜之丁、東町三丁目、同四丁目、同五丁目、立町、古浜、仙場の10の町内会で組織されており、50人位が半日ばかりで仕上げられました。

(3) 素材の調達先

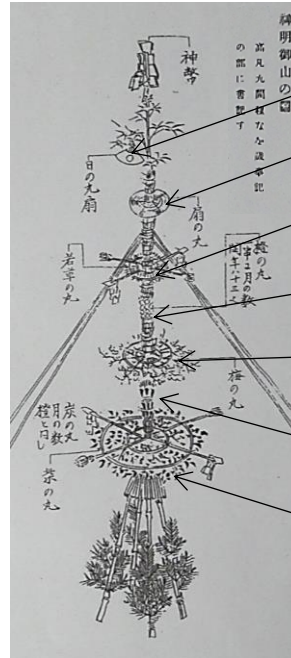
竹、うらじろ、松、柏、梅、橙等自然植物を求めて、竹原市、中之町、西野などにも事前に出向いて調達したそうです。

(4) 設置時の祝詞…設置作業前には、糸碕神社の宮司さんによる祝詞が上がります。

(5) 後始末…田圃の中への設置等と異なり、火は付けられないので、解体後、瀧宮神社の宮司さんのお祓いを受けて、公共施設まで搬送して処理されます。

(6) 苦労話… 設置関係者に伺いました。

- (a) 昔は、筵も縄も自分達で編んでいたのが、手作りの満足感があったが、今は調達品でさびしい。
- (b) 手作りのできる人が高齢となり、人数だけ大勢集めても、縄の結び方も分からない人が多いので、作業がなかなかかからない。
- (c) 日赤病院の新館の辺りがまだ公園だったころ、そこに立てたとんどは、その場で火をつけたものだったが、今は解体作業や解体後の搬送に、手間を掛けねばならない。



〔三原志稿の解説〕



〔平成30年の駅前とんど〕

※橙は一串に月の数十二個刺して十二本、閏年は十三個也、炭も同じ。

「三原神明市協賛会」で、お山之図としてに伝来している解説

「お山は、理想とする人格を形作ったものと
云われ神おろしの據り代なり」

扇の丸	…太陽、勇氣、円満	若草の丸	…神（純粹）
橙の丸	…水を表現、清らかな心	梅の丸	…奥ゆかしい心
炭の丸	…火を表現、欲望		
柴の丸	…松と柏は、松柏の心（節操）		

竹は、節度や定め

3. 三原駅前以外のとんど

上記協賛会に加入している町内会には、以前、ほとんどが独自のとんどを立てていましたが、後継者不足などの理由で、三原駅前にほぼ集約されてしまいました。今年、東町五丁目町内会は復活しましたが… 市内全域で三原消防署に届け出のあるとんどの数は、23基（1月末現在）だそうです。

おもしろクイズ

（ヒントは本文に記載されています）

- 三原駅前のとんどは、三原志稿の絵図を参考に製作されていますが、高さはおよそ
(ア) 5m (イ) 18m (ウ) 25m
- 同上は、大勢の人が半日掛かって仕上げられました。何人位だったのでしょうか？
(ア) 20人 (イ) 50人 (ウ) 100人
- とんどには、色々な 丸 があります。何種類あるのでしょうか？
(ア) 3種類 (イ) 5種類 (ウ) 6種類



三原のお祭り

8/15



三原市大和町 ^{こうどなり} 神 殿 入 (市岡八幡神社)

1. ^{こうどなり} 神殿入 とは

この度の祭りに取り上げた「^{こうどなり} 神殿入」は馬洗川上流域で限られた地域に見られる祭で、三次市吉舎町辻の辻八幡神社では「こうそのり」と言い、府中市上下町井永の井永八幡神社では「こうどのり」と言い、世羅郡世羅町上津田での呼び名は「こうどなり」と言います。今回取材した市岡八幡神社でも「こうどなり」と言っています。この祭は、「実りに感謝し、来年の豊作を祈る」というものと、「先祖の霊をお社にお送りする」神事の二通りがある様です。

2. 市岡八幡神社

三原市大和町萩原に市岡八幡神社があり、ご神体は^{はいばら}帯中津日子命 ^{なかつひこのみこと} 品陀和氣命 ^{ほんたわけのみこと} 息長常姫命 ^{おきながちひめのみこと} のほか7神が祀られています。

旧萩原村（現三原市大和町萩原）には、4社・9小祠・29荒神があったと伝えられています。明治4年に南方八幡宮と北方八幡宮がお旅所でもあった縁の深いこの地（市岡）に合併となり、市岡の地名から市岡八幡神社と呼ばれました。またこの地にあった^{だいせん}大山社も同時に合祀されました。

（4社とは南方八幡宮・北方八幡宮・祇園社・一品神社を指し、9小祠は^{いっぽん}稲生神社・大山社・水分社・天満宮二社・巖島大明神二社・^{まろうど}客人権現・石鎚権現をいいます）



〔市岡八幡神社〕



〔明かりのついた参道〕

3. 市岡八幡神社の^{こうどなり} 神殿入

ここ市岡八幡神社では、毎年11月の第1土曜日から日曜日にかけて行われる祭です。各氏子の家々では本宮に鎮まられている「先祖の神様」をお迎えするときの目印として、軒先に御神燈を掲げてお迎えし、家族揃って盛大におもてなしをします。一時のあと、子どもや孫との団欒を楽しんだ「先祖の神様」を神輿にお鎮まり頂いて、各氏子が御神燈を掲げて本宮にお送りする伝統行事です。

いつの頃から始まったかは市岡八幡神社には記録がなく不明です。しかし古くからあることは確かで周辺の神社（辻八幡神社）では天明年間(1781~89)に始められたと伝えられています。



〔各家庭から集められた御神燈〕



〔地区ごとに飾り付けられた山車〕



〔山車に先導されて神社へ〕

「^{こうどなり} 神殿入」は各家庭を出発した御神燈が地区毎に集まり、^{だし}山車に先導され、8時頃から一番遠くの地区から、所定の場所に集合します。そこで5地区の全ての山車が出揃うと、9時30分頃を合図にいよいよ打上げ（神社の境内に昇ること）が始まります。



〔参道に集まった御神燈〕。



〔始まった打上げ〕

笛・太鼓・鉦の音に合わせて進む多くの御神燈が秋の漆黒に映える様は、神秘的であり、また荘厳でした。本殿では、宮司が御霊をお迎えし、本殿に御鎮まりになられた後宵祭りが斎行されます。

御神燈の数は氏子の戸数によりますが、現在氏子の戸数は約170戸であり、全ての家庭で御神燈が上がると170個の数が有る筈ですが、人口減少と少子高齢化の影響もあり、130個位でした。



〔境内に集まった山車〕



〔ご先祖様の御霊を迎える宮司〕。



〔拝殿で行われた神事〕

本来この「神殿入」と言う行事は、御神燈を持ってご先祖様の御霊をお社にお送りするのは、子どもたちの務めでありました。「伝統的な行事を通して先祖を大切にし、自然の恵みに感謝する心を育てることが、健全な子どもの育成につながるものとの考えで神事化したのではないかと思います」と宮司は話されました。

〔三原市
無形民俗文化財〕

「神殿入」が終わり宵祭が終了すると、神楽の奉納が始まります。古い時代には夜なか中、酒を酌み交わしながら楽しんだそうですが今年は、午前1時頃には神楽の奉納は終わりました。



〔神楽を舞う団員〕



〔神楽に見入る氏子〕



〔舞台の飾り〕



〔舞台の幕〕

翌5日は、朝10時からご神体を乗せた御神輿が里内を巡行し、当屋においてお祓いをし、直会を経て御神体を乗せた神輿の帰還を待って、例大祭が行われます。

例大祭神事は参拝者へのお祓い、宮司の祝詞奏上、玉串奉奠^{ほうてん}、直会を経て全ての神事は終了しました。

この後、氏子さんたちは福引の景品を手にも、三々五々帰路につきました。



〔巡行を待つ神輿〕

三原にもこんな神秘的で荘厳な祭がありました。
一度体感してみられては如何でしょうか。

石碑が語る三原の歴史

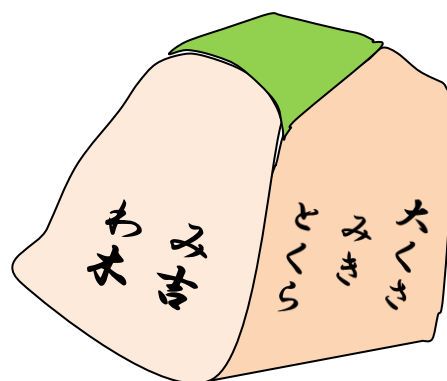
瀬戸内三原 築城450年事業も11月の浮城まつりで終了、それとは無関係ではありますが、この市民学芸員による「みはら玉手箱」も最終回、道半ばではありますが、せめて隆景公縁のもので締めたいと、隆景公飛躍の城ともなった新高山城に足を運びました。

弘治元(1555)年厳島合戦に勝利した6年後の永禄4(1561)年、毛利元就は当主隆元を伴って新高山城を訪ねています。3月26日椋梨弘平の館に1泊して新高山城に向かい、隆景公の歓待を受け、瀑雪の滝を観光して吉田郡山城へと帰っていきました。元就にとって内海内陸の安定を見、毛利両川の心も整い始め、何はともあれ、つかの間のうれしい道行であったことでしょう。それから間もなくいよいよ出雲攻めですが、その途次、隆元は不慮の死を遂げています。

道 標



〔姥ヶ原道標〕



横 36cm
奥行 30cm
高さ 31cm

平成29年3月19日、大和町ふるさと文化愛好会の方々が築城450年記念事業として「毛利元就父子ゆかりの古道を歩こう」の楽しい企画を実施されました。その時紹介された道標です。元就一行もこの旧道から平坂峠を越えて船木村へ抜けたのであろうといわれています。いつの頃作られたものかはわかりませんが、誰でも読めるように漢字交じりかな書きとしたか、あるいは多くの漢字を知らない者が、故あって作ったか、いかにも素人作りに見えところが想像をかきたてます。

本郷橋から県道33号線、大草分れの343号線を進み、2つ目の分岐点を左、町道平坂線に入り姥ヶ原池を過ぎて左手に山が途切れ畑との境目の野道を20m入ったところに、ひっそりと蹲っています。

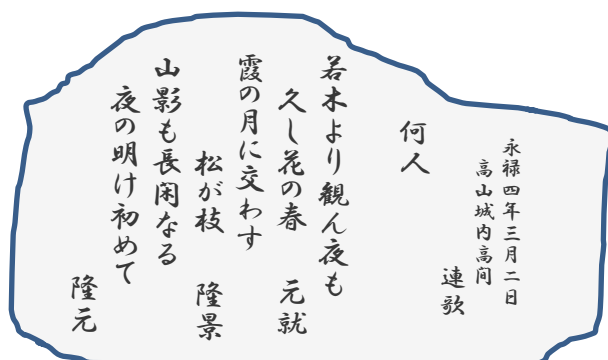
句碑・詩碑



旧本郷橋南詰を沼田川沿いに上流に行くと、本郷の鎮守、橘神社を左手に過ぎて、かの三原三名城を串刺しにする新幹線高架橋が見えてきます。目印は「新高山城登山口」の小さな看板です。駐車場も完備しており「新高山城跡を守る会」の方々によって整備されています。登山の前にちょっと寄り道して、新幹線高架橋をくぐり「沼田本郷の名水」を頂くのも一興です。



[連歌碑]



横 158cm
下奥行 32cm
上奥行 17cm
高さ 93cm

新高山城跡を守る会
沼田文化研究会
碑文
新高山城跡を守る会
会長 河原孝三書之
昭和六十年七月吉日
石工 藥本勝美

毛利家文書403の「毛利元就父子雄高山城行向滞留日記」には隆景公が3月27日に二人を麓まで出迎え、9日間に亘って、能や御酒馳走して歓待したことが書かれています。在城6日目の、「閏3月2日晴 於 高間御連歌」とあります。着実に戦国武将として成長していく毛利家ですが、武力知力のみならず、文化的にも教養の高さが伺えます。

「若い木々(息子たち)から見てみればいかがであろうか、花の春のこの長い夜は」 元就

「霞がかった月の夜に、大きな松(元就)の、枝と枝(我ら兄弟)の交わす思い」 隆景

「すっかり話し込んで、月光に尾を引く山影も長閑に見える、すでに夜も明け初めてしまった」 隆元
(筆者解釈)

さらなる一族の結束を願いつつ長子隆元に家督を譲り、毛利家の行く末をどのように思い描いていたのでしょうか。

後に、隆景公は天正5(1577)年南側中腹の郭に匡真寺を建立して、父元就の七回忌、母妙玖の三十三回忌の法要を行っています。

この連歌碑はその匡真寺の建物跡の背後、庭園の痕跡をとどめる山際に、新高山城跡を守る会と沼田文化研究会の篤き思いで建てられています。これらの会の方も高齢化して人数は減り、思いは篤くも活動ままならず、の現状、史跡の未来へのバトンの渡し方を憂えていらっしやいました。築城450年事業でその未来へ繋げる人材なりグループなりの育成や萌芽の手応えはあったのでしょうか。

記念碑



〔瀑雪の滝〕

横	151 cm
奥 行	70 cm
高 さ	260 cm
台座上段高さ	28 cm
台座下段高さ	61 cm



〔同碑足元の説明板〕

国道2号線を本郷橋から分れ沼田川沿いの県道33号線を進みます。右手高山城の麓を走りながら、左手対岸には、197m断崖の如く聳える新高山城、「小早川隆景公居城」「新高山城跡」「祝、続日本100名城」と誇らしくも慎まじやかに看板が上がっています。空港分れを過ぎて山陽本線に並行して走りながら、山陽道高架橋をくぐり徳富蘇峰が「安芸の嵐山」と呼んだ、船木峡に入ります。広島空港大橋、通称スカイアーチが遠く高く見え始めるとまもなく青い鉄橋のような見るからにクラシックな下畑橋しもはた(これはこれで近世文化遺産)のあたり、山側が瀑雪の滝駐車場で、入口近くにこの碑は建っています。

山陽本線のガードをくぐって瀑雪の滝まで200m。落差30mの一枚岩を豪快に流れ落ちる音は轟々ごうごうと響き渡り、無数の飛沫と濛々もうもうたる水煙が舞う様は、実にその名にふさわしいものです。毛利家文書「毛利元就父子雄高山行向滞留日記」に、「閏3月6日晴 栖真寺 打送 一献 滝見物」とあります。

元就父子はこの滝を見上げ、ここから棲真寺まで1300mの山道を登りさらにもと来た大和町の道を経て吉田の城に帰ったのでしょう。因みにこの瀑雪の滝から棲真寺までの山道は、昭和初期までは生活道として機能していたそうです。使われなくなって荒れていたその山道は平成22年、本郷町観光協会によって復活整備されています。



三原にある狛犬



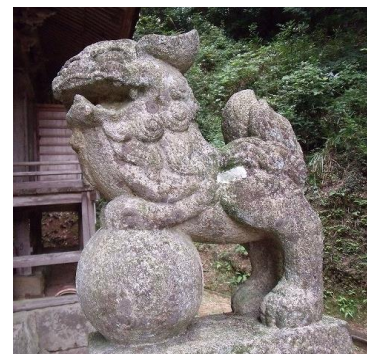
今回も、大和地区の狛犬を紹介します。（神社の由緒説明文は広島県神社誌による）

51. 細八幡神社（細野神社） 三原市大和町大草5600

創建は嘉元年間(1303~6)と記されているが詳らかでない。永禄9(1566)年、行武与左衛門らが再建した棟札が存する。明治4年、細谷八重垣神社を合祀した。元治元(1864)年、行武氏より奉納された三十六歌仙絵が保存されている。



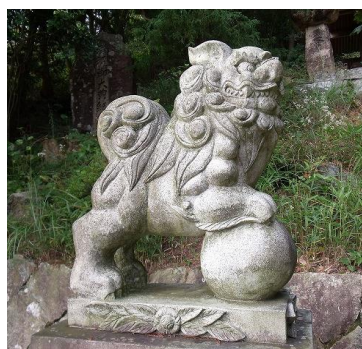
	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	73	27	50
吽形	73	27	50
年代	慶応 2(1866)年6月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



52. 矢矧神社

三原市大和町上徳良322-2

三河国より勧請すと旧記に見える。安永5(1776)年、再建の棟札あり。昭和60(1985)年10月、社殿を新築する。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	86	30	70
吽形	86	30	70
年代	平成11(1999)年3月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



53. 八和田神社

三原市大和町上徳良3405

当社はもと稻荷本に鎮座し、元久元(1204)年9月の創祀と伝え八幡神社と称した。配祀の神中品陀和気命、天照皇大神、須佐之男神の三神は、宇和原鎮座の和田神社の祭神で、明治44(1911)年当社に合祀された。また大神神は、宇大仙に寛永17(1640)年牛馬の疫病退散祈願のため伯耆国大仙神社（大神山神社）より勧請した大仙神社で、明治44年当社に合祀された。また当社は明治44年に下徳良亀山神社に合祀されたものの、昭和21年9月25日現在地に還御になり、社名を八和田神社とする。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	84	33	68
吽形	84	33	68
年代	平成8(1996)年11月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



5 1. 細八幡神社 (細野神社)

三原市大和町大草5600



【参道全景】



【社殿全景】

5 2. 矢矧神社

三原市大和町上徳良322-2



【参道全景】



【社殿全景】

5 3. 八和田神社

三原市大和町上徳良3405



【参道全景】



【社殿全景】